

## [報告] 石碑が語る東京・名古屋の関東大震災

名古屋大学減災連携研究センター\* 武村雅之

### §1. 東京での石碑(拾遺)

震災の犠牲者を悼み、後世に教訓を伝えるために、また復興の証として、多くの石碑が建てられている。それらを世に出し、防災・減災の一助にしたいと考え、東京都23区内にある関東大震災をはじめとする石碑と震災関連地点を探した。現地調査の結果を本年3月に、『関東大震災を歩く:現代に生きる災害の記憶』吉川弘文館刊[武村(2012)]としてまとめた。対象は260件である。その後新たに23区内で4件の対象物を見つけた。

#### 1.1 東京商科大学予科石神井校舎旧跡

(場所)練馬区石神井町8丁目(西武池袋線石神井駅西北西約300m)

(状況)石神井稲荷の境内に説明板と記念碑があり、入り口には「東京商科大学予科校舎旧跡」と書かれた標柱が立っている。

(由緒)説明板によれば、関東大震災によって東京商科大学(現在の一ツ橋大学)の神田一ツ橋の校舎が焼失したため、石神井稲荷の境内を含む敷地には仮校舎が新築され、翌1924年4月から1933(昭和8)年8月小平に移るまで商大予科生がここに学んだ。それを記念して1978年に記念碑が有志によって建てられ、1994(平成6)年からは同校の同窓会である社団法人如水会が管理することになる。数年前には如水会練馬支部が設立され管理に当たっている。記念碑の裏面には、「題字 高橋泰蔵、撰書 依光良馨」とある。前者は一橋大名誉教授、後者は寮歌「紫紺の闇」の作詞者として有名。



#### 1.2 真言宗不動院の慰霊碑

(場所)足立区千住1丁目(JR常磐線北千住駅西南西約400m)

(状況)境内に入ると参道右側に立つ。脇に「芳潤碑」があり、52名の氏名と4つの団体名が書かれている。帝国在郷軍人会千住町分会、千住町青年団、千住町青物市場組合は読める。

(由緒)碑の正面には「大正十二年九月一日 大震災歿死者霊位」、裏面には「大正十三年七月建立」とある。慰霊碑建立のいきさつは現住職も分らない。足立区立郷土博物館蔵の『千住町大震災写真帖』大正13年5月刊[橋本(1924)]によれば、町民は自らも大きな被害を受けながら大量の避難民の救護に当たった。9月1日の震災直後から避難民を受け入れるため、役場は不動院境内に天幕張の仮事務所を設け、緊急町会を招集して救護を開始、翌年5月4日まで事に当たった。その中心となったのが在郷軍人会千住町分会と千住町青年団であった。慰霊碑建立は救護活動終了直後の7月で「施餓鬼会」法要を行う時期に当たる。



#### 1.3 扇橋地藏尊

(場所)江東区扇橋一丁目(東京メトロ半蔵門線住吉駅南南東約700m)

(状況)清洲橋通りから入ってすぐの所に祠がある。

(由緒)東京大空襲・戦災資料センター・友の会編(2009)に「この地で風呂屋を営んでいた一家が東京大空襲で全滅となり、近所の方が一体の地藏尊を建立したものです。並んでいるもう一体は、関東大震災

\* 〒464-0029 名古屋市千種区不老町  
電子メール: takemura.masayuki@b.mbox.nagoya-u.ac.jp

の被災者の地蔵尊です。」という説明がある。祠にある由来記は半分以上読めないが、大きい方が震災の時に扇橋付近の川べりで亡くなった人の冥福を祈るものであることが分る。近所で存在を知っている人は皆無に近い。ただ祠は戦前からあり、昔は風呂屋だったという証言を得た。



#### 1.4 真言宗善照寺の十一面観音像

(場所)江戸川区東小松川 3 丁目(都営新宿線船堀駅北約 1.3km)

(状況)境内入口の説明板によれば、この寺は通称「相撲寺」と呼ばれていたらしく、近年まで毎年 9 月 28 日の不動尊の縁日には草相撲が行われていた。山門をくぐった右側にある御堂の裏の墓地に十一面観音像が建っている。傷みが激しく台座の裏面に以下のように刻まれているのが辛くも読める。

大正十三甲子年

大震災横死者霊 供養塔

九月一日建立

現住職(30 世)の話では、27 世の祖父が建てたものであるという。祖母の話では、地震で檀家にも一家全員が亡くなった家もあるなど被害が甚大で、寺も壁が落ちるなどの被害があった。犠牲者の諸霊を思い



建立したのだろう。亡くなった方々が身に付けていたものが台座下に収められていたようである。1924(大正 13)年 9 月 28 日のお不動尊の縁日の写真が残っており、稚児行列なども出ているので、寺の再建とともに建立されたものかもしれない。

## §2. 名古屋にもある慰霊碑・慰霊堂

遠隔地である名古屋市内にも関東大震災の慰霊碑や慰霊堂があることが分ったので概略を紹介する。『大正震災志』下巻[内務省社会局(1926)]によれば、愛知県への避難民は 9 月 4 日午後 4 時に名古屋駅に到着した 300 名を皮切りに 9 月 30 日までに総計で 15 万 742 人に達したと言われている。これに対して名古屋市は取りあえず名古屋駅前広場に大天幕を張って応急宿舎にしたが、その増加にとっても追いつけなかった。そのことを耳にした寺院、教会、富豪はもとより一般市民も貧者の一燈に至るまで宿舎の提供を申し出る者が跡を絶たず、県市の救護活動上多大の便宜を得たと同書は記している。

慰霊碑や慰霊堂は、全山挙げて救護活動に当たった日泰寺の境内である。日泰寺は 1900(明治 33)年にシャム国王から贈られた釈迦の遺骨を奉安するために同 37 年に創建された超宗派の仏教寺院である。

### 2.1 橘宗一の墓

(場所)名古屋市千種区自由が丘 2 丁目日泰寺 1 号墓地内(地下鉄名城線自由が丘駅西約 300m)

(状況)橘宗一は、関東大震災の 6 年半前、1917(大正 6)年にアメリカ移民の貿易商と大杉栄の妹あやめとの間に生まれた。震災直後の 9 月 16 日に叔父の大杉栄、伊藤野枝夫妻と共にいて甘粕事件で殺害された。石碑は父親の橘惣三郎により息子が 10 才になる日に建立され、1972 年頃に発見されるまで放置されていた。その後、大杉に縁の人や名古屋で人権問題に係わっている人、さらには愛知県出身の市川房枝や



婦選会館の人々など多くの協力で「橘宗一少年墓碑保存会」が設立され、1975(昭和50)年に日泰寺内に墓地が整備された[橘宗一少年墓碑保存会(1985)].

(正面上部)Mr. M. Tachibana / Born in Portland Org. / 12th 4. 1917. USA (下部)吾人は / 須らく愛に生べし / 愛は神なればなり / 橘 宗一

裏面には父親の悔しさが以下のように綴られている。

(裏面上部) 宗一(八才)八 / 再渡日中東 / 京大震災ノ / サイ大正十二年 / (一九二三年)九月十六 / 日夜, 大杉栄 / 野枝ト共二犬 / 共ニ虐殺サル

Build at 12th 4. 1927 by S. Tatibana

(下部)なでし子を / 夜半の嵐に / た折られて / あやめもわかぬ / ものとなりけり / 橘 惣三郎

なお、宗一の歳が8歳と記されているが、正しくは満6歳と5か月で数年でも7歳である。父親が最愛の子の歳を間違えるとも思えないが、時が流れても心の動揺は隠せぬものだったのだろうか。

## 2.2 関東大震災供養堂

(場所)名古屋市千種区山城新町1丁目日泰寺奉安塔入口(地下鉄東山線覚王山駅北北東約700m)

(状況)横に由来記の碑があり主要部を要約すると、

関東大震災惨死者遺骨 供養堂由来記

震災時、當山日暹寺では各講員を動員して毎日名驛頭に派し、流浪せる避難民を收容宿泊せしめ救済に務めた。一方慰問使6名を現地に特派し、東京横濱を中心に親しく数十の火葬場を弔問し、多数の遺骨を拾集して歸山した。爾来その遺骨は特に供養の為め鑄造された釋尊の銅像と共に日暹寺の本堂に安置されていたが、本年恰も本會の創立二十週年に當り、記念事業として日暹寺から之れを懇請することを得、茲に供養堂を建立し永く遺靈の冥福お祈りする。

裏面に、覚王山萬燈會会長の小林藤吉以下12名



の名と石を寄付した中区古渡町の婦人の名が刻まれ、昭和十五年四月とある。日暹寺とは創立当初の日泰寺の名称で「シャム=暹羅」から来たもので、1949(昭和24)年のタイ王国への改名に合わせ改称された。

## 2.3 関東大震災惨死者供養塔

(場所)名古屋市千種区自由が丘2丁目日泰寺1号墓地内(地下鉄名城線自由が丘駅西約100m)

(状況)地下鉄自由が丘駅のすぐ近く、日泰寺墓地内の名古屋商業高校に隣接するところに高さ3mにもおよぶ大きな供養塔が建っている。正面には「大正十二年九月一日 関東大震災惨死者供養塔」とあり、左側面には「大正十五年八月廿一日建之」とある。

裏面には発起人として青山金次郎とあり、世話人9名の氏名と住所が、右側面には寄附者として24名の氏名と住所が記されている。それぞれ1人を除き、全てが当時の名古屋市内の住民である。由来は不明であるが、供養堂と同様、避難民の救済に当たった人々が、遠く遠隔地で震災の犠牲となった多くの人々への想いを永遠に伝えるべく建立したものではないかと思われる。



## §3. おわりに

関東大震災は全国民に東日本大震災に勝るとも劣らない衝撃を与えた。そのことは名古屋市民が犠牲者に対し慰霊碑や慰霊堂まで建立して永代供養を誓ったことから分る。今後も調査を継続して当時の人々の思いの一端に触れるべく努力したい。

## 謝辞

調査にあたり東京では永井九一会員から、また名古屋では、愛知県平和委員会理事長高橋信氏に貴重な情報を頂いた。記して感謝します。

## 文 献

橋本幸吉編, 1924, 千住町大震災写真帖, 千住町  
庶務課, 26 pp.  
内務省社会局編, 1926, 大正震災志下巻, 836 pp.  
武村雅之, 2012, 関東大震災を歩く - 現代に生きる

災害の記憶, 吉川弘文館, 328 pp.  
橋宗一少年の墓碑保存会, 1985, 九月は苦の月: 橋  
宗一少年の墓碑保存運動の十年, 40 pp.  
東京大空襲・戦災資料センター・友の会編, 2009, 東  
京大空襲を歩く, 32pp.